

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年6月調査結果

現在の景気の現状判断は、先月に比べ6.3%ポイント上げてDI値が36.8%ポイントと、厳しい状況が少し緩む判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、先月と同じDI値49.4%ポイントとほぼ回復の状態が続く判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合は、先月より2.2%ポイント悪化の45.4%ポイントと、回復傾向からやや厳しい状況に戻る判断となっています。

3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、先月に比べ8.8%ポイント下げて、46.1%ポイントとやや厳しい状況の戻る予想となっています。

◎全体的には、引続き消費の低迷や低価格志向があり一部で改善の兆しがあるものの、景気が回復する中で一時的な中休み状態（踊り場入り）に入る兆しがあるものと思われます。

平成22年7月23日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は7月20日まで)

○有効回答率

84.4% 有効回答客体 38名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「DI」といいます。

「DI」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 DI値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、DI値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒ ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、先月に比べ6.3%ポイント上げて36.8%ポイントと、厳しい状況が少し緩む判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連は9.6%ポイントと改善し31.3%ポイント、飲食観光関連も2.1%ポイント改善し39.6%ポイント、サービス関連も10.7%ポイントと改善し35.7%ポイントと厳しい状況の判断となっています。

また、雇用関連でも、先月と同じ42.9%ポイントと、やや厳しい状況が続く判断となっています。

表1 6月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	36.8
家計動向関連	0.0	16.1	35.5	22.6	25.8	0.0	35.5
小売関連	0.0	16.7	25.0	25.0	33.3	0.0	31.3
飲食観光関連	0.0	25.0	33.3	16.7	25.0	0.0	39.6
サービス関連	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	35.7
雇用関連	0.0	14.3	42.9	42.8	0.0	0.0	42.9

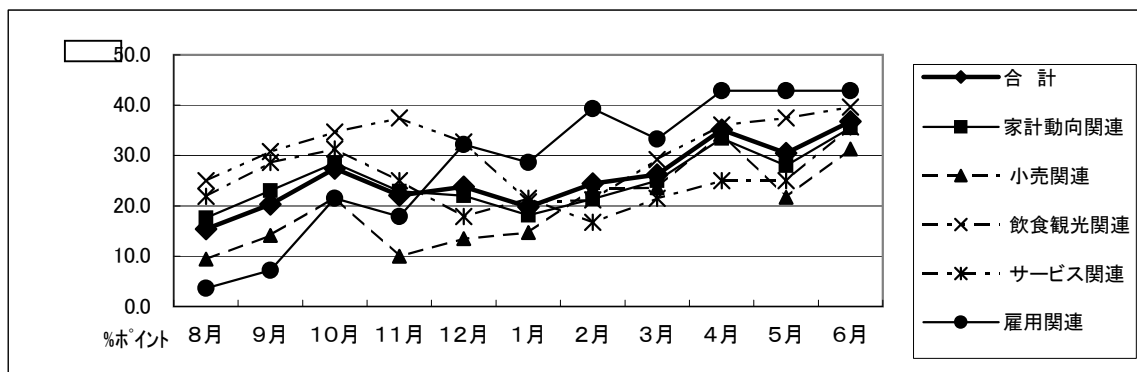
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	23.8
	2	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
	3	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
	4	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
	5	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
	6	0.0	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	36.8
	(前月差)	(0.0)	(8.5)	(7.5)	(-15.2)	(-0.8)	(0.0)	(6.3)

表3 D I 値の推移

	2010年						(前月差)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
合計	19.8	24.4	26.2	35.1	30.5	36.8	(6.3)
家計動向関連	18.1	21.4	25.0	33.4	28.0	35.5	(7.5)
小売関連	14.7	23.5	23.6	34.4	21.7	31.3	(9.6)
飲食観光関連	20.8	21.2	29.2	36.1	37.5	39.6	(2.1)
サービス関連	21.5	16.7	21.5	25.0	25.0	35.7	(10.7)
雇用関連	28.6	39.3	33.3	42.9	42.9	42.9	(0.0)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と同じ49.4%とほぼ回復の状態が続く判断となっています。
 内訳は、家計動向関連の小売関連で8.3%が改善し50.0%、飲食観光関連で4.1%が低下の43.8%、サービス関連で3.5%が低下の42.9%と回復からやや厳しい状況が続く判断となっています。
 また、雇用関連は、64.3%と7.1%下げたものの引き続き回復を示す判断となっています。

表1 6月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	2.6	36.9	26.3	23.7	10.5	0.0	49.4
家計動向関連	3.2	29.1	29.0	25.8	12.9	0.0	46.0
小売関連	0.0	41.7	33.3	8.3	16.7	0.0	50.0
飲食観光関連	8.3	16.7	25.0	41.7	8.3	0.0	43.8
サービス関連	0.0	28.6	28.5	28.6	14.3	0.0	42.9
雇用関連	0.0	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	64.3

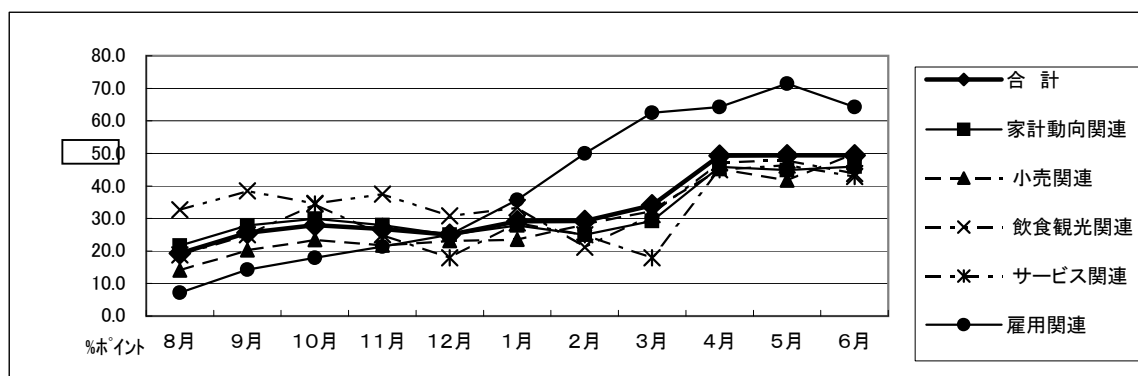
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	2	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
	3	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
	4	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
	5	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
	6	2.6	36.9	26.3	23.7	10.5	0.0	49.4
	(前月差)	(0.2)	(10.1)	(-20.1)	(9.1)	(0.7)	(0.0)	(0.0)

表3 D I 値の推移

	2010年						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	(前月差)
合計	29.1	29.2	34.0	49.3	49.4	49.4	(0.0)
家計動向関連	27.8	25.0	29.2	45.9	44.9	46.0	(1.1)
小売関連	23.5	28.2	32.4	45.3	41.7	50.0	(8.3)
飲食観光関連	33.4	21.2	31.2	47.2	47.9	43.8	(-4.1)
サービス関連	28.6	25.0	17.9	45.0	46.4	42.9	(-3.5)
雇用関連	35.7	50.0	62.5	64.3	71.4	64.3	(-7.1)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月に比べ2.2%悪化の45.4%と、回復傾向からやや厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、小売関連で5.8%上げて45.8%、飲食観光関連では6.3%下げて45.8%、サービス関連は先月と同じ39.3%とやや厳しい状況判断となっています。

また、雇用関連は、先月と比べて14.3%下げて、50.0%と辛うじて回復を示す判断となっています。

表1 6月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	2.6	21.1	44.7	18.4	13.2	0.0	45.4
家計動向関連	3.2	22.6	38.7	19.4	16.1	0.0	44.4
小売関連	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	45.8
飲食観光関連	8.3	25.0	25.0	25.0	16.7	0.0	45.8
サービス関連	0.0	0.0	71.4	14.3	14.3	0.0	39.3
雇用関連	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	50.0

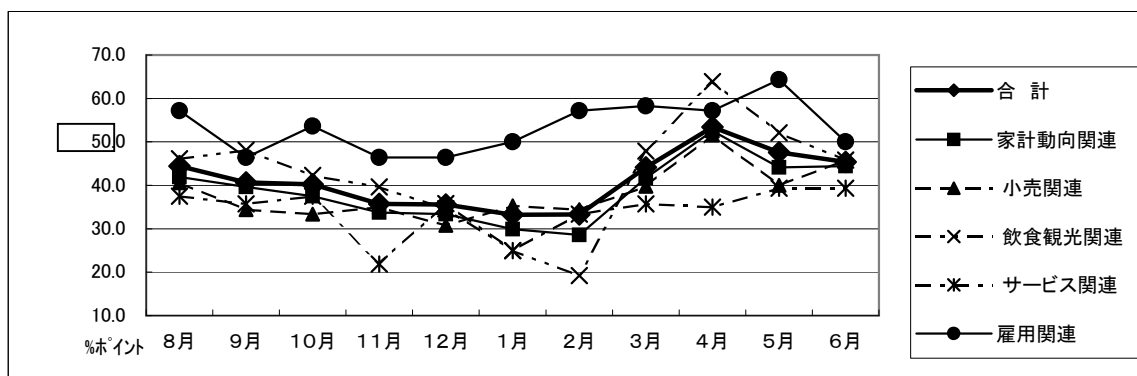
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2010	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	2	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
	3	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
	4	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
	5	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
	6	2.6	21.1	44.7	18.4	13.2	0.0	45.4
	(前月差)	(2.6)	(-3.3)	(-4.1)	(3.8)	(3.4)	(-2.4)	(-2.2)

表3 D I 値の推移

	2010年						(前月差)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
合計	33.2	33.3	44.1	53.4	47.6	45.4	(-2.2)
家計動向関連	29.9	28.6	41.7	52.5	44.1	44.4	(0.3)
小売関連	35.3	34.4	39.8	51.6	40.0	45.8	(5.8)
飲食観光関連	25.0	19.2	47.9	63.9	52.1	45.8	(-6.3)
サービス関連	25.0	33.4	35.7	35.0	39.3	39.3	(0.0)
雇用関連	50.0	57.2	58.3	57.2	64.3	50.0	(-14.3)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、良い・悪い両面から「お客様の様子」が58.3%と高くなっています。

飲食観光関連でも、観光客などの増減から「来客数の動き」が75.0%と、先月と同じく突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、お客様の減少などから「お客様の様子」が71.4%と「来客数の動き」が57.1%と多くなっています。

次に、雇用関連では、新規求人数の状況から「求人数の動き」が85.7%と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	54.8	25.8	22.6	41.9	3.2	0.0
小売関連	33.3	25.0	33.3	58.3	0.0	0.0
飲食観光関連	75.0	33.3	25.0	8.3	0.0	0.0
サービス関連	57.1	14.3	0.0	71.4	14.3	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	85.7	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月と比べ8.8%ポイント下げて、46.1%ポイントとやや厳しい状況に戻る予想となっています。

内訳は、飲食観光関連が16.7%ポイント下げて47.9%ポイント、また、雇用関連も21.5%ポイント下げて、46.4%ポイントとなり、全ての項目でやや厳しい状況を見込む予想となっています。

表1 6月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.6	21.1	44.7	21.1	10.5	0.0	46.1
家計動向関連	3.2	25.8	35.5	22.6	12.9	0.0	46.0
小売関連	0.0	33.3	25.0	33.4	8.3	0.0	45.8
飲食観光関連	8.3	25.0	33.3	16.7	16.7	0.0	47.9
サービス関連	0.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	42.9
雇用関連	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	46.4

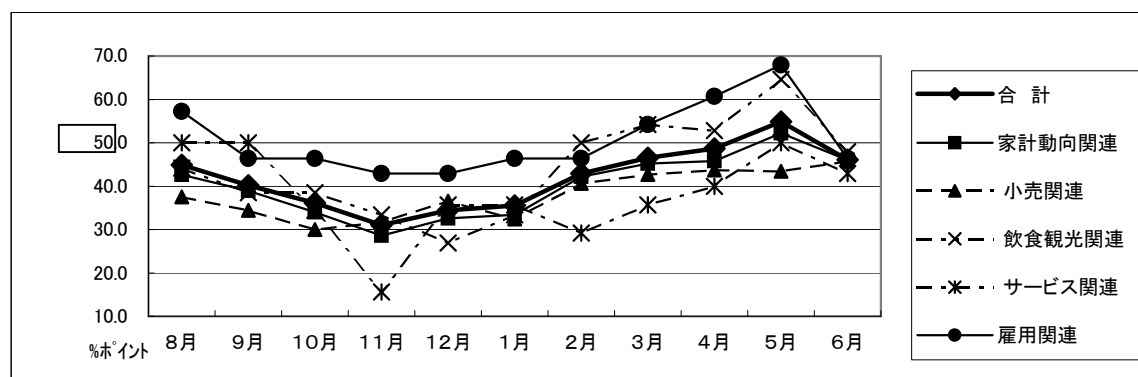
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	2	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
	3	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
	4	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
	5	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
	6	2.6	21.1	44.7	21.1	10.5	0.0	46.1
	(前月差)	(0.2)	(-15.5)	(3.2)	(8.9)	(5.6)	(-2.4)	(-8.8)

表3 D I 値の推移

	2010年						(前月差)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
合計	35.5	42.9	46.5	48.7	54.9	46.1	(-8.8)
家計動向関連	33.4	42.2	45.2	45.8	52.2	46.0	(-6.2)
小売関連	32.4	40.6	42.7	43.7	43.4	45.8	(2.4)
飲食観光関連	33.4	50.0	54.2	52.8	64.6	47.9	(-16.7)
サービス関連	35.7	29.2	35.7	40.0	50.0	42.9	(-7.1)
雇用関連	46.4	46.4	54.2	60.7	67.9	46.4	(-21.5)



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	良くなっている	良くなっている	スナック	来客数の動き	・年金者は、こづかい内で遊び、若い人も一生懸命働いて、息抜きに来てくれているようです。
	やや良くなっている	やや良くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・依然として景気低迷の中、単価などは下がっているが、ほしい物は購入したいと考えてみえる方が来店頂いている所をみて。
			小売店	単価の動きとお客様の様子	—
			小売店	お客様の様子	・果物の売上が伸びている。つまり、必要不可欠ではない商品が売れ始めてのでは？
			スーパー	単価の動きとお客様の様子	・高額品の動きが良い、買える人が買っている。
			道の駅	販売量の動きとお客様の様子	・効果的な手法により、リピーターが徐々に増えている。
			居酒屋	来客数の動き	・スポーツの関係の集いや、消防関係で人が集まったかな。
		変わらない	飲食店	来客数と単価の動き	・土・日は人の流れ（市外より）があるが、平日の動きが少しにぶく感じる。
	変わらない	やや良くなっている	自動車販売	お客様の様子	・割合商談がスムーズ（キャンセルの割合が少なくなってきた。）にゆくようになってきた。（成約率向上。）
			レストラン	来客数の動き	・6月に予定されていた高速道路料金改定が先送りされ、土日祝日の1,000円効果の継続がみられ、恒例の「坂下さつき展」「ウチョウラン展」等のイベント開催が客数増に寄与したものと考えられる。
			金融機関	来客数の動きとお客様の様子	・ボーナスが支給された後の活気がない気がします。マイカーローンが増加傾向ではあるが、ボーナス払いがない。
			福祉施設	お客様の様子	・生活福祉資金（総合支援資金）の貸付相談件数が減らない。
			小売店	来客数と販売量の動き	・セール等の企画をうたないと来客数、販売量ともに上昇の気配がない。
			スーパー	お客様の様子	—
			スーパー	来客数と単価の動き	—
			ホテル	来客数の動き	・昨年と同様の状況だった。
			旅行代理店	来客数の動き	・あまり来店人員に変わりはないように思えます。
			金融機関	お客様の様子	・業況は低景ではある、上向かない。
			タクシー運転手	お客様の様子	・町の様子を見ると、駅の利用、店の来客数が変わらず、タクシー利用も町の様子と同じ。
			理容室	来客数の動き	・来客数が少ない。
			商店街関係者	来客数と販売量の動き	・来客数が減っている分、販売量が少なくなっています。
	やや悪くなっている	変わらない	小売店	来客数、販売量、単価の動き	—
			レストラン	販売量の動き	・来客数は、なんとか維持しているが、客単価が著しく低下している。

		旅館	来客数と単価の動き	・来客数の減、価格の低価格化。	
		観光案内所	来客数と販売量の動き	・来客数の減少。 ・オリジナルセット商品が昨年と比べると販売量が減った。	
		美容室	来客数の動き	・来客の回数が少ない。	
悪くなっている	やや悪くなっている	旅館	来客数と単価の動き	—	
	悪くなっている	商店街関係者	—	—	
		小売店	お客様の様子	・必要最低限の買物が多い。	
		道の駅	販売量の動き	—	
		タクシー運転手	来客数、販売量の動きとお客様、競争相手の様子	・売り上げの減少。	
雇用関連	やや良くなっている	自治体労働政策担当	求人数の動きと周辺企業の様子	・市内高等学校への求人数の増加。 ・製造系企業については、受注量増加の声を多数聞く。	
	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数の動き	・製造業において前年と比べ、求人数自体は大幅な増加がみられるが、臨時求人の割合が高いなど、本格的な求人意欲の回復は、まだ感じられない。
			労働金庫	周辺企業の様子	・周辺企業及び各労働組合に活気がない。
			学校就職担当	求人数の動き	・景気は回復しつつあるようですが、まだ求人を増やすまでには、いたっていない。企業を訪問しても高卒求人については、昨年より厳しい状況がある。
			労働相談所	求人数と採用者数の動き	・企業からの求人数が伸びてこない。
		変わらない	学校就職担当	求人数の動き	—
やや悪くなっている	やや悪くなっている	人材派遣会社	求人数、求職者数の動きと雇用形態の様子	・パートなどに形態が変わっているだけで、正社員化は進んでいない、全体的な雇用は減っており、当分こうした状態が続くと思われる。	

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
	良くなる	観光案内所	・夏休み効果を期待。 ・栗きんとん販売が8月20日すぎに始まるのを期待して。
	やや良くなる	商店街関係者	・将来の景気が良くなる事を希望して販売したいと思います。
		小売店	・全国的には買い癖かえもガマンの限界になりつつあるという、ただ現状では高額所得者に限定された傾向。経済の先行きが少しでも明るくなれば一般にも広がると思われる。
		小売店	・期待をこめて。
		スーパー	—
		道の駅	・ヒト・モノ・カネが少しずつ集約できるようになる。
		飲食店	・夏から秋にかけて人の出を期待し、又、小企業まで景気回復してくれば。
		スナック	・マスコミとかに振り廻されず、地に足を着け、地道に真心を持って、人間と接する事は、とても大切だと思います。皆がそういう気持ちを持てば、人のせいやグチらず、日々努力！きっと良くなっていくと思います。
		福祉施設	・中津川工業団地で働く友人が残業するようになった。
	変わらない	商店街関係者	・メーカーさんや問屋さんの話では、未だ景気回復といわれるような話は全くなく、全般的にいて、未だがまんの時かと思う。
		スーパー	—
		自動車販売	・高額商品（高級車）の商談が少ない。まだまだ、軽自動車が8～9割といったところ。
		道の駅	—
レストラン		・良くなる要因がない。	
ホテル		・もう少し先になると思います。	
旅行代理店		・子ども手当などが出て、夏休みに旅行に行く人は増えるのか…？。（子ども手当などもらった人もいないからわかりません。）今のところ、その様子は見られない。	
金融機関		・政策が安定しない現状では、変わらないと思う。	
美容室		・当分この状況だと思う。	
理容室		・良くなる要因がない。	
タクシー運転手		・このままでは、変わらないです。変わらないどころか悪くなっていく一方だと我々の商売も心配です。	
やや悪くなる	小売店	・世界情状。	
	小売店	・地場産業の衰退。	
	小売店	—	
	スーパー	・世界情状。	

		レストラン	－
		旅館	－
		金融機関	・参議院選挙や消費税の増税論議があり、景気の好転にはネガティブな方向になっている。
	悪くなる	商店街関係者	－
		居酒屋	・現時点で、予約が例年より少なすぎるから。
		旅館	・予約状況から。
		タクシー運転手	・良くなる見通しが全くない。
雇用 関 連	変わらない	職業安定所	－
		労働金庫	・好転する要素が全く無い。
		学校就職担当	－
		学校就職担当	・先行きが不透明で分からないことが多いが、良くなっていくような材料が見あたらない。業種によっては、良くなっている企業があると聞くが、全体的には回復しているとはいいがたい。
		人材派遣会社	・製造業、サービス業とも部分的に改善のきざしが見えるも、全体として改善しているとは言い難い。…先行き不透明。
		労働相談所	・参議院選挙が終了しないと動きはない。
	やや悪くなる	自治体労働政策担当	・エコポイント終了後、自動車・家電関係においては生産量が減少してくるのではないかと。 ・参議院選挙後の増税の影響。